

[参考事項]

新技術名： ブドウ黒とう病の越冬枝病斑は4月から8月まで伝染源となる  
(平成28～29年)

研究機関名 果樹試験場 生産技術部  
担当者 佐藤 裕

[要約]

ブドウ黒とう病の越冬枝病斑は自然降雨下で、4月から8月までいずれの時期でも新梢葉へ感染する。また、発病枝は2シーズンにわたり感染する。

[普及対象範囲]

県全域のブドウ生産者

[ねらい]

近年、「シャインマスカット」の栽培が拡大するにつれ、ブドウ黒とう病の被害が顕在化してきた。本病の第一次伝染源は前年に形成された越冬枝病斑であり、この枝病斑からの感染阻止が防除にとって重要であるが、一次感染の期間が明らかとなっていない。そこで、「シャインマスカット」について、第一次伝染源からの感染期間を明らかにする。

[技術の内容・特徴]

- 1 本病の越冬枝病斑からは、病原菌が葉や新梢へ4月下旬頃から8月中旬頃まで感染する(表1、2)。
- 2 越冬枝病斑は、2シーズンにわたり感染力を維持する(表1、2)。

[成果の活用上の留意点]

- 1 本病は若い葉に感染しやすいので、未結果樹でも発芽期から本病の防除が必要がある。
- 2 前年まで発病している木は必ず休眠期防除を実施し、発芽期以降も定期的に防除する。
- 3 樹勢が強い場合は新梢が遅くまで伸長するため、長期間の防除が必要となる。
- 4 薬剤防除だけに頼らず、伝染源(枝や巻つる上の病斑)の除去は発芽前までに行い、園外へ持ち出す。また、雨よけ施設の導入など耕種的な防除も有効である。

[具体的なデータ等]

表1 発病枝を接種源とした時期別暴露によるブドウ黒とう病の発病状況(2016年)

暴露期間		4/6- 21	4/21- 5/1	5/1- 5/11	5/11- 5/21	5/21- 5/31	5/31- 6/11	6/11- 6/21	6/21- 7/1	7/1- 7/11	7/11- 7/21	7/21- 8/2	8/2- 8/11	8/11- 8/20	8/20- 9/1	9/1- 9/6
各部位	新梢	-	+	-	+	+	-	+	+	+	+	+	-	-	+	-
での	葉身	-	+	+	+	+	-	+	+	+	+	+	+	+	+	-
発病の	葉柄	-	+	+	+	+	-	+	+	+	+	+	-	+	+	-

接種源: 2015年秋季に採集した発病枝を屋外で冬越しさせた後、長さ20cmに切りそろえ、5本/束とした

接種方法: 長さ1.5mのカラー鋼管先端部に接種源を結束し、ポット植えのシャインマスカットの支柱に添え、自然降雨下で枝病斑から直下の新梢葉に感染させた。供試ポットの屋外暴露期間は概ね10日間とし、順次新しいものと交換し、暴露時以外は温室内で管理を行い、できるだけ新梢伸長の旺盛な苗を供試した。

調査: 暴露後は随時、発病の有無を部位別に観察した。

+: 発病あり、-: 発病なし

表2 発病枝を接種源とした時期別暴露試験によるブドウ黒とう病の発病状況(2017年)

暴露期間		5/9- 5/23	5/23- 6/6	6/6- 6/21	6/21- 7/6	7/6- 7/21	7/21- 8/7	8/7- 8/21	8/21- 9/6
各部位	新梢	+	+	-	+	+	+	-	-
での	葉身	+	+	-	+	+	+	+	-
発病の	葉柄	+	+	-	+	+	+	-	-

接種源: 2016年に供試した接種源を屋外で越冬させ、そのまま供試した。

接種方法: 2016年の方法に準じたが、供試ポットの暴露期間は概ね2週間とした。

+: 発病あり、-: 発病なし



図1 供試樹の発病葉

[発表論文等]  
なし